



新春を迎え

笠間市長

山口 伸樹

明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望と期待に満ちた新春を健やかに迎えたいことと、心からお喜び申し上げます。また、旧年中は、市政運営に対する温かいご支援とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

私は、議会をはじめ市民の皆様のご理解の下、市政の運営と市民サービスの向上に取り組んでまいりましたが、この平成20年の幕開けを、大きな希望と責任の重さをかみしめながら迎えたところでございます。本年も、市民の皆様への負託に応えることができるよう、精一杯頑張つてまいりたいと考えております。

さて、昨年は、笠間市民憲章と市の花・木・鳥の制定、笠間市総合計画の策定、笠間市行財政改革大綱の策定、補助金の見直しなどを

行ったほか、市民コミュニティ活動に対する助成制度を新設いたしました。また、7月から11月まで市政懇談会を開催し、多くの団体の皆様から貴重な意見を賜りました。同時に、市の厳しい財源を確保するため、市税の収納対策としてタイヤロックを導入するとともに、広報紙やホームページ、市の封筒などに有料広告を掲載するなど、自主財源の確保に努めてまいりました。そして、地方自治の推進や地域住民が一体となった様々なまちづくりを展開する中、本市の施策が高く評価され、地方自治法施行60周年記念総務大臣表彰をいただいたほか、魅力ある茨城づくりに貢献したとして、いばらきイメージアップ大賞奨励賞を受賞いたしました。

一方、笠間市を取り巻く状況は、少子高齢化等による人口の減少、景気の低迷、三位一体の改革によ

る交付税の削減、国・県の補助金や事業の見直し・廃止など大変厳しいものと実感しております。笠間市としても、行財政改革の断行、指定管理者制度の導入・拡大、補助金の見直し等に取り組んでまいりましたが、今後も効果的・効率的な行政サービスに向けた施策の整備に取り組んでまいります。

市の上位計画である笠間市総合計画では、「にぎわいの創造」、「やさしさの創造」、「ふれあいの創造」の三つの基本方針の下、将来像を「みんなで創る文化交流都市」としており、この実現に向けて、市民との連携・協働によるまちづくり施策を展開してまいりたいと考えております。

特に今年には、新交通システム「デマンドタクシー」の運行、岩間支所庁舎の空きスペースの有効活用、企業誘致の強化、子育て支援事業の重点施策への位置付け、市

立病院の経営形態の見直し、料金など未統一事業の調整等を行ってまいります。また、平成20年度と21年度において「まちづくり特例市」の指定を受け、権限委譲のもとで行政サービスを行ってまいります。多様な住民ニーズに迅速かつ的確に対応していく必要性から、職員の研修や派遣等を積極的に行つてまいります。

今年春には、北関東自動車道桜川筑西ICと笠間西IC間が開通し、23年度の全線開通に向けて広域交流の輪が広がります。また、ブラジル移民百周年祭に合わせ、稲田みかげ石のモニュメントがサンパウロに向けて出航します。そして、合気道の世界的な広がり、クールシェヴエール国際音楽アカデミーの開催など、笠間市はまさに国際文化・芸術のまちとして歩み出しています。「文化交流都市」、この将来像の実現に向けて市民と行政が連携し、お互いの信頼関係を築き上げていくことが大切であると考えております。

結びに、笠間市の輝かしい未来に向けて全力を尽くすことを誓うとともに、市民の皆様のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。